P-27

言語発達障害児における表出語彙の特徴

新潟医療福祉大学言語聴覚学科・吉岡　豊

【背景】

ヒトとして最初に発する言葉を初語というが，言葉に遅れがある子どもの場合はその出現が遅れる[1]．さらに，初語以降の語彙獲得にも遅れが生じることはよく知られている．本研究では，初語表出以降，言語発達障害児がどの程度の表出語彙を持っているのか，さらにどのような品詞や意味内容が多いのかについて調査した．

【方法】

対象は，新潟医療福祉大学言語発達支援センターを利用した言語発達障害児 20 例（男 15 例，女 5 例）であった．初診年齢は 2 歳 3 か月～10 歳 11 か月であった．その内訳では自閉症を含む広汎性発達障害 10 例と半数を占めていた．各例に対して田研式言語発達検査の語彙検査を実施し表出語彙年齢を算出した．表出語彙年齢が算出できなかった場合は，遠城寺式乳幼児分析的発達検査の発語年齢を表出語彙年齢とした．その他，対象児に本研究用に作成した 3,141 語からなる表出語彙チェック表（名詞，形容詞，動詞，副詞，オノマトペ，感動詞，助詞・助動詞など）による語彙数のチェックと日本語版マッカーサー乳幼児言語発達質問紙を実施した．

【結果】

表出語彙年齢順に表出語彙チェック表とマッカーサー乳幼児言語発達質問紙による表出語彙数をみたのが図 1 である．この図から，個人差はあるものの表出語彙年齢が高いと表出語彙数は多く，かつ表出語彙年齢が 4 歳後半に達しないと表出語彙数が 1,000 語を越えない傾向にあることがわかる．

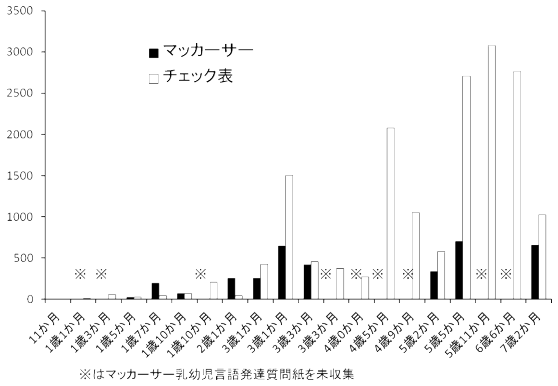

図 1　表出語彙年齢にみた表出語彙数

図 2 は表出語彙チェック表でチェックされた語彙の品詞別割合をみたものである．なお，この分析では語彙数が 100 未満のものは除外した．この図を見ると，いずれの症例でも名詞が最も多い点に変わりはないが，その傾向は自閉症で特に顕著であることがわかる．

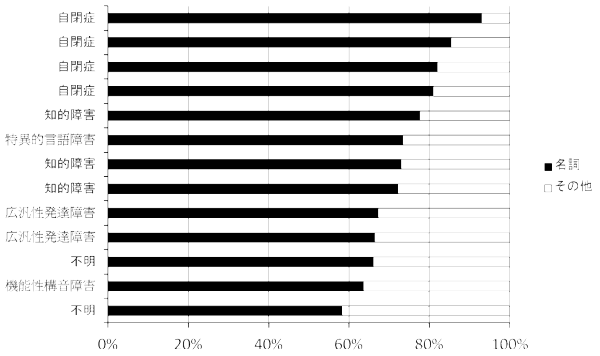

図 2　語彙チェック表にもとづく品詞分類

日本語版マッカーサー乳幼児言語発達質問紙にある意味カテゴリーのうち各症例で上位 3 位までを示したものが表 1 である．表に示すとおり，身近な意味カテゴリーが多かった．

表 1　マッカーサー質問紙における意味カテゴリー（n=14）

	飲食物	家庭用品	動物名
例数	14	12	12

【考察】

本研究の結果，言語発達障害児の表出語彙は言語能力に応じて増加傾向にあったが，個人差も大きかった．これは典型発達児における同様の傾向がより強調されているものと思われる[2]．また，自閉症児において表出語彙に占める名詞の割合が高い傾向にあったが，この特徴が自閉症に一貫した傾向であるのかについては例数を増やして検討する必要がある．

表出された名詞の意味カテゴリーは典型発達児と違いはなく[3]，言語発達障害児においても身近な語彙から獲得していくものと思われる．

【結論】

言語発達障害児の表出語彙を検討した結果，言語能力の向上とともに表出語彙の増加傾向が認められた．自閉症児では名詞の割合が高い傾向にあった．語の意味カテゴリーは典型発達児と変わらなかった

【文献】

1)　吉岡豊，土佐香織（2013）健常児と言語発達障害児における初語の検討．新潟医療福祉学会誌，投稿中．
2)　小坂美鶴（2012）典型発達児の呼称課題における語彙の発達－誤りの分析から見る語意味とその構造－．音声言語医学，53，212-218.
3)　藤原雅子，今給黎禎子，安川千代ら（2006）1 歳代の表出語彙の発達－品詞による分析；名詞－．九州保健福祉大学研究紀要，7，161-168.

本研究は平成 24 年度新潟医療福祉大学学内奨励金の支援を受けた．ここに謝意を表する．